

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 126 人

② 算数 126 人

5 留意事項

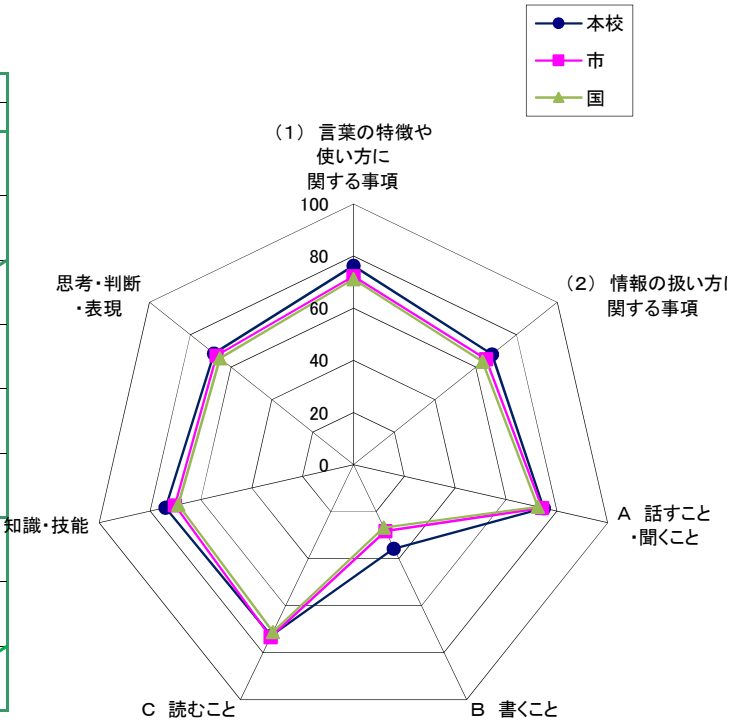
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立泉が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	76.3	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	67.9	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	74.9	74.2	72.6
	B 書くこと	35.7	28.2	26.7
	C 読むこと	72.8	73.3	71.2
観点	知識・技能	73.9	70.2	68.9
	思考・判断・表現	68.4	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

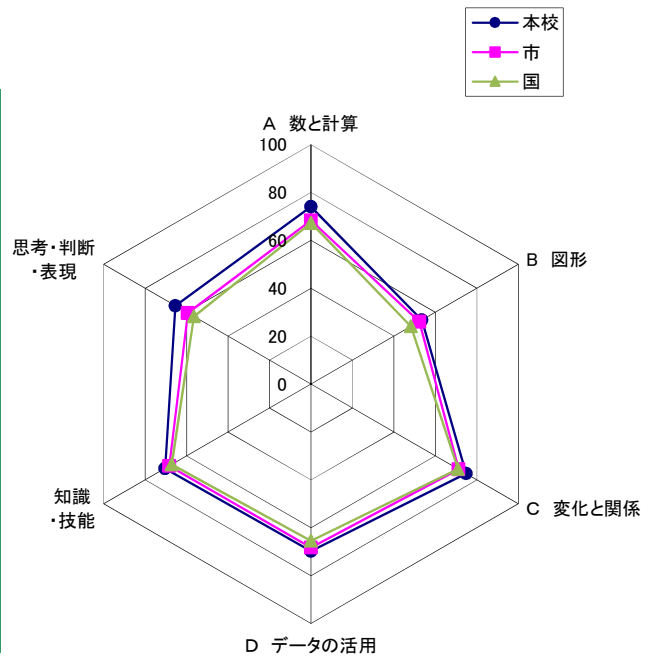
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は76.3%で、全国平均と比べて5.1ポイント上回った。 ○漢字を文章の中で正しく使う問題や敬語を正しく理解しているかを問う問題では、正答率が市や県に比べて大きく上回っており、概ね定着していることが伺える。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や家庭学習の時間も活用し、学年配当漢字だけでなく、既習漢字を継続的に練習する機会を設け、文章の中で学習した漢字を使うことができるように指導していく。 ・5問程度の自作の漢字テストを定期的の実施し、スモールステップで漢字の定着が図れるようにする。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は67.9%で、全国平均と比べて4.5ポイント上回った。 ○情報と情報の関係を理解する問題で4.4ポイント、情報の関係を理解し使う問題で5.2ポイント、県の平均を上回った。	・複数の情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書く力を伸ばすために短文を読んで要約したり、キーワードを抜き出したりするなど、的確に話題を捉えて表現する活動を他教科においても取り入れていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は74.9%で、全国平均と比べて2.3ポイント上回った。 ○話の内容や要点を捉える設問では約7割の児童が正解しており、相手の話を理解しようと意識して聞く指導の成果が表れていると考えられる。	・話し合い活動においては、根拠を明確にして自分の考えを発表したり、話の中心を捉えながら聞いたりすることができるよう、掲示資料を作成するなど、指導の充実を図る。 ・今後も、児童同士が意見を交換する場面や発表する機会を設定し、よりよい話し方や聞き方が身に付くように指導を継続していく。
B 書くこと	平均正答率は35.7%で、全国平均と比べて9.0ポイント上回った。 ●全国平均を大きく上回ってはいるが、他の領域と比較してもっとも正答率が低く、「書くこと」に課題があると考えられる。	・問題の指示を正しく読み取るために、問題の目的や意図を明確にできるよう指導する。さらに、自分の主張を明確に伝えるために、文章全体の構成や展開を考えて筋道の通った文章を書くことができるよう指導の充実を図る。 ・国語のみならず全ての学習活動において、文章を書く機会を設定し、自分の思いや考えを言葉で表現する力を育成していく。
C 読むこと	平均正答率は72.8%で、全国平均と比べて1.6ポイント上回った。 ○目的を意識して必要な情報を見付けたり、要約したりする問題では県の平均をやや上回った。 ●文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる問題では、市の正答率を下回った。	・文章を読む際に重要な箇所線に引いたり、前後関係を確認したりしながら読むことなどを通して、目的に応じて必要な情報を見付けられるように指導する。 ・「B書くこと」同様、自分の思いや考えを文章で表現する機会を設定し、豊かに表現する力を高めるために個別指導を行っていく。

宇都宮市立泉が丘小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	74.1	68.4	67.3
	B 図形	53.5	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	74.8	71.2	70.9
	D データの活用	69.8	68.3	65.5
観点	知識・技能	70.4	68.4	67.2
	思考・判断・表現	65.4	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は74.1%で、全国平均と比べて6.8ポイント上回った。しかし、どの領域についても、無解答率が全国・市よりも高い傾向にある。 ○ほぼ全ての設問で正答率は市平均より高く、特に分配法則を用いた計算についてよくできている。 ●全国や市平均を上回っているが、(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる設問では、正答率が66.1%と低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・制限時間がある中で課題に取り組む経験をさせ、時間配分を考えながら解答することができるように指導していく。 ・朝の学習の時間や家庭学習を中心に、ドリルやプリントを活用して基本的な四則演算や計算のきまりへの理解を深めるようにする。
B 図形	平均正答率は53.5%で、全国平均より5.3ポイント上回った。 ○台形の意味や性質を問う設問では、正答率が74.0%で市平均を12.1ポイント上回っている。 ●正方形や三角形の意味や性質についての設問では、正答率が全国平均よりやや下回っており、無回答率は5ポイント以上上回っていた。 ●全国や市平均を上回っているが、他領域と比較して最も平均点が低く、図形領域の理解に課題が見られる。	・文章題や図を用いた設問に取り組む機会を設け、設問から必要な情報を読み取ることができるように指導していく。 ・単元の導入や困難が予想される問題など、実際に児童が作業するための具体物や半具体物を用意し、個に応じた指導の充実を図る。
C 変化と関係	平均正答率は74.8%で、全国平均より3.9ポイント上回った。 ○百分率で表された割合について問う設問では、正答率が市平均より12ポイント上回った。 ●百分率で表された割合について問う設問では、正答率は市や全国を上回っているが、56.7%と決して高くない。	・比例を求めるための知識の定着を図るため、プリントやドリル学習等を通して繰り返し指導する。特に、百分率や割合についての基礎的理解が深まるように、身近な生活の場面での割合を用いた課題を多く設定する。
D データの活用	平均正答率は69.8%で、全国平均より4.3ポイント上回った。 ○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる設問では、市平均を4.2ポイント上回った。 ●無解答率が他領域と比較して最も高く、特に記述で解答する設問では無解答率が15%だった。	・記述で解答する設問に取り組む機会を設け、根拠となる数値を用いて解答することができるように指導していく。 ・課題解決に向けて、複数のデータを集めて分類整理し、表やグラフに表すことができるようにするため、今後も適切なデータを選択することができるような課題設定に努める。

宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「学校に行くのは楽しい」と回答した児童の割合は90.9%と全国平均を5.6ポイント上回っており、9割以上の児童が楽しく登校していることが伺える。今後も児童の様子をよく見守ることで、友達関係の変化やいじめの兆候、児童の困り感などを察知し、どの児童も学校に行くのが楽しいと思えるように、さらなる支援を続けていきたい。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」について肯定的な回答の割合が92.4%である。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的な回答の割合も97.8%と高く、ほとんどの児童が人の役に立つことに意義を感じていると推測される。今後も特別活動や道徳教育との関連を図り、継続して親切・思いやり、勤労・奉仕などの態度を育てていきたい。

○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」では、「役に立つと思う」と回答した児童の割合が96.9%である。このことから、授業や家庭学習においてICT機器の効果的な活用が図られていると推測される。今後も、調べ学習だけではなく意見を共有する場面において積極的に活用し、より効果的なICT機器の活用を目指していきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、肯定的な回答が88.7%と全国平均を6.9ポイント上回っている。また、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の回答の割合も全国平均を8.3ポイント上回っている。今後も授業や学校生活を通して自分の考えをもったり、広めたりできるよう支援を継続していく。

●「家で自分で計画を立てて勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含む)」について、「よくしている」「ときどきしている」と回答した児童の割合が、全国平均より6.3ポイント、県平均より11.7ポイント下回っている。個人差はあるが休日はさらに学習時間が短くなる傾向がある。家庭学習の意義や仕方について、指導を続けるとともに、中学校に向けて自主的に学習を行う態度も育てていきたい。

宇都宮市立泉が丘小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思考力・判断力・表現力等の育成	「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に「話す・聞く」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動を充実させる。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」における肯定的割合は88.7%であり、全国平均より6.9ポイント上回った。
個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進	タブレット等のICTを活用した学習活動や外国語教育の充実を図り、表現する力を育成する。	「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」における肯定的割合は96.9%であり、全国平均より1.8ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「英語の勉強は好きですか」の肯定的割合が63.6%であり、全国平均より5.7ポイント下回った。また、「家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか」においては、「行っていない」と答えた児童が34.8%おり、英語を学ぼうとする姿勢が定着していないと考えられる。	タブレット等のICTを活用した学習活動や外国語教育の充実を図り、表現する力を育成することに加えて、AI型ドリル等を計画的に活用し、基礎基本の確実な習得を図る。	外国語の授業では、児童の興味・関心を高め、満足感や達成感を味わえる活動の設定を行ったり、主体的にコミュニケーションを図るために目的や伝え合う必然性のある活動を取り入れたりする。 外国語に触れる機会を増やすため、AI型ドリルやデジタル教科書等のICTを活用した学習を推進し、家庭学習でも発音練習や外国語の音声を聞く学習を積極的に取り入れる。